

2021年度機関誌「進路」第56号のP21～P23「12 問題点や要望等」以降の内容が第55号のP30～P32の内容と同一でしたので差し替えをお願いいたします。
なお、差し替え分ページ数はP21～P22のように3ページ分から2ページ分に減少します。

10 2020年11月以降に実施された複数応募・推薦について

表24

	a	b
	①生徒数	②内定数
普通科	3	3
総合学科	1	1
専門高校	13	12
定通	4	4
支援学校	12	12
合計	33	32

11 高卒就職情報WEBサービスについて

表25

a	閲覧させて	
	①いる	②いない
普通科	36	25
総合学科	12	2
専門高校	5	11
定通	9	3
支援学校	1	20
合計	63	61

表26

b	閲覧の条件	
	①教員が付添い	②特定の求人票
普通科	22	3
総合学科	9	3
専門高校	6	1
定通	9	1
支援学校	1	0
合計	47	8

12 問題点や要望等

1 求人状況

- ・事務職、サービス、販売業の減少が目立つ。
- ・コロナの影響は思ったより少ない。

2 応募前職場見学

- ・求人票の解禁時期を前倒しして、応募前職場見学までの期間を長くとれるようにしてほしい。
- ・応募前職場見学の期間が短すぎる。応募前職場見学に行く事業所は何社が妥当であるか。

3 高卒就職情報WEBサービスについて

- ・求人が終わっているのに、情報を残したままの企業がある。
- ・webパスワードを公開して生徒が自由に検索できるようにしてほしい。
- ・学校でしか生徒に見せられないので、教員の負担が膨大。

5 校務処理システム

- ・調査書の本人の長所・推薦事由の欄の体裁が整いにくかった。（フォントのサイズや余白など）調査書の入力が思うようにいかない。

7 その他

- ・求人票の様式が変更となったが「職種」という文言がなくなり、履歴書の「希望の職種」欄にどのように記入させたらよいか指導に悩む。
- ・来年度から開始予定の複数応募に関する不安。

13 複数応募を実施した場合の問題点等の主なもの

・複数の書類作成や面接指導が生徒・教員どちらにとっても大変だと思います。
・現状の1社でも、ほとんどの生徒は履歴書作成や面接練習において、多大な労力を要している。そう考えると、1人2社以上に挑戦する生徒は、相当な気概と能力が必要と思われる。
・複数合格の場合の断り方など不安があります。
・仮に1次応募で全員が2社応募した場合、本校のような小規模校は教員の数が足りず、履歴書指導や調査書作成が対応できない。その後の繰り上げ内定や内定辞退など、開始前の時点で未知のトラブルが山積している。
・全日制の生徒が内定をたくさんもらうことで、定時制・通信制の生徒にとっては不利な状況になってしまう不安がある。
・生徒、教員の負担の増加。選考方法の複雑化の懸念、複数応募によって教員の引率がどこまで対応できるか疑問。
・選考日のバッティングなど、複数応募していることを伝えて調整しても大丈夫なのか、複数合格した場合にどの程度まで保留しておけるのかも企業によってバラバラなのか、など不安は尽きません。
・就職希望者が多い学校ほど負担の増加量は計り知れない。
・応募制が始まると、競争倍率が上昇し、不調生徒数が増え、指導が難しくなること。